



月歩学歩

月日を歩き，
学んで歩く

千葉明德短期大学 MAGAZINE

『げっぽがっぽ』

2024年8・9・10月号



発行 千葉明德短期大学
千葉市中央区南生実町 1412
TEL: 043-265-1613
FAX: 043-265-1627



最近まで暑かったのに、一気に秋めいてひんやりとした空気を感じます。何を着たらいいのか迷ってしまいますね。

明德短大では、酷暑の8月には短大学園祭「めいとくひろば」があり、夏休みに2年生は保育実習Ⅱ・Ⅲに取り組みました。9月にはわくわく体験学習（2年生選択授業）、乳児保育体験（1年生）、保育内容説明会（2年生）と、休みと学びが交互にあり、盛りだくさんな夏でした。リフレッシュされつつ、学びが深まる秋、後期授業でより一層深化していく様子を応援していきたいと思っています。

また、9月20日（金）～22日（日）に、本学で「国際幼児教育学会」が開催されました！詳しくは裏表紙に記載してありますのでご覧ください。

さてさて、この8・9・10月号には、現代社会論特集があります！本学の特色の一つでもある魅力的な科目です！



目次

- 03 最近の明德風景
- 04 学園祭
- 06 保育実習Ⅱ
- 07 保育内容説明会
- 08 現代社会論特集

—学生企画—

- 14 続・隣の研究室
～突撃インタビュー！～
- 16 編集後記



遊びコーナー



飲食コーナー



ステージ



楽しい学園祭でしたね♪

来年も盛り上げましょう！

学生企画 「学園祭を振り返って」

西尾悠真（学園祭実行委員長）

今年の学園祭で自分は学園祭実行委員長というみんなをまとめる立場に立ちました。一年前の自分では考えられないし、とてもプレッシャーもあってたくさん緊張したことが記憶に残っています。まとめるということもわからなかったし、自分には何ができるんだろうと何回も考えたりもしました。学園祭を乗り切ったなという思いが強かったと思います。

僕自身のできる範囲で実行委員長として学園祭を盛り上げることができていたら、みんなが楽しんでくれていたのならとても嬉しいです。

学園祭は、実行委員のみんなや学友会、職員や先生、サークルの人々のおかげで完成したと思っています。僕自身みんなにたくさん助けてもらったので、改めて感謝を伝えたいと思います。

学園祭に取り組んでくださった皆さん本当にありがとうございました！！



佐藤葉悠（佐藤ゼミ&軽音サークル）

今年の学園祭は本当に楽しかったです！全体の雰囲気はとても賑やかで、友達と一緒に過ごす時間が特に印象に残りました。私の所属する佐藤ゼミの出店では、手作りのフライドポテトを販売しましたが、予想以上にたくさんのお客さんが来てくれて嬉しかったです。

また、軽音サークルとしてステージでのパフォーマンスも行いました。演奏した曲は「夏色」や「怪獣の花唄」、「マリーゴールド」「相思相愛」「なんでもないよ」を演奏しました。夏らしい楽しい曲を用意しました。特に「怪獣の花唄」では、観客の皆さんも一緒に手拍子をしてくれたり、歌ってくれたりして、とても盛り上がりました。

最後に、学園祭を企画してくれた実行委員の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。来年もまた、素晴らしい学園祭が開催されることを楽しみにしています。





土田友花（ダンスサークル）

去年の学園祭がとても楽しかったので、今年の学園祭も楽しみにしていました。私はダンスサークルに入っているのですが、学園祭に向けては主にその練習をサークルメンバーと一緒に頑張っていました。教育実習やテストがあり、中々全員で集まって練習する時間が取れませんでした。

少ない時間の中でも、個人で練習をしてなんとか本番を迎えることができました。「ジャンボリミッキー」なども踊り、子どもたちもたくさん見に来てくれてとても嬉しかったです。各ゼミの出し物も楽しむことができ、美味しい物もたくさん食べました。学生としてできる最後の学園祭は一生の宝物になりました。





保育実習Ⅱ

小木曾友則

短大2年間の集大成となる保育実習Ⅱは、学生生活最後の実習です。8月末から9月上旬までの2週間、これまで学んだ知識と技術を駆使して、理論と実践を結びつけます。学生の皆さんには保育のあらゆる場面で「こどもにとってどうか」という視点で考える力を身に付けてほしいと願っています。こどもにとって望ましい関わりを考えることは、自らの保育観と向き合うことでもあります。実習に向けて、事前指導では記録を通じた振り返りの方法や、こどもの実態を踏まえた指導案作成、乳児の発達的特徴などを中心に学びます。最後の実習を前に、「実習が楽しみ」と語る学生もいれば、「実習準備ができているか心配」と相談に来てくれる人もいます。学生にとって、実習が大きな山場になっていることが伝わってきます。実習担当として、学生の皆さんと期待や不安を分かち合い、背中を押す役割を果たしたいと考えています。

実習中は、教員全員で訪問指導に行きます。先生方からお話をうかがい、実習の様子を教えてくださいたいです。私たち教員は、園の先生方が学生の良さに気付いてくださることが何よりの喜びです。面談ではこうした良さを伝えながら、保育者としての自分の魅力を自覚できるようにしています。一方で、悩みながらも懸命に実習に向かっている学生もいます。その時は気持ちと状況を整理し、具体策と一緒に考えられるようにしています。

実習後は、エピソード記録をもとに、保育士の専門性や倫理と結びつけながら振り返りを行います。ディスカッションを通じて、多様な視点で保育を捉える力を身に付けていきます。学生たちから「大変な時もあったけど、こどもたちの笑顔のためにやってよかった」「こどものためにこんな関わりをしたら喜んでくれた」という声を聞くと、実習を通じて「こどもにとってどうか」という見方を身に付け、大きく成長したことを感じます。

こうした充実した学びを可能にしているのは、本学の実習に深い理解を示してくださる園の皆様の温かなご指導とご支援のおかげです。改めて感謝申し上げます。



保育内容説明会

井上裕美子

2024年9月26日（木）に午前の部、午後の部と分かれて、「保育内容説明会」を開催しました。午前には21団体、午後には33団体の保育所・幼稚園・認定こども園の先生方が来校してくださり、学生たちへ園の特色や保育内容、そして実際に働く保育者の声を聞かせていただきました。働いている明徳の卒業生が説明会に園の先生方と共に来校してくれることもあり、保育者として社会人として大人になっている様子が見られ、教員たちも嬉しく思っていました。

本学の就職の流れとしては、まずは実習を振り返り学生自身が自分のことを見つめ直すこと、そして、園の保育内容を実際に見学や体験を通して知ること、ゼミの担当教員と相談し保育観を整理していくことと段階を踏んでいき、就職試験を受けるといった形を推奨しています。保育内容説明会が実施された9月下旬は、全ての実習が終了した直後であり、2年生の後期授業が始まる前の時期です。「実習が終わった達成感」はありつつも「自分の保育に対する思い」や「具体的に働くイメージ」は、はっきりある時期ではなく、「どうしよう…就職。」と何気ない雑談の中にも、学生たちが不安そうにする言葉を耳にしていました。

その時期に保育内容説明会という様々な園に来校していただき、園の保育を実践者の言葉で生き生きと説明してくださったこと、写真や動画やパンフレット等を通して具体的に知ることができたことは、学生にとっても大変有意義な時間となりました。この説明会によって、幅広い保育内容を知ることができ、保育内容とともに保育者の方々の熱い思いに触れられ、学生たちは「まずは自分の目で見たい、知りたい」という気持ちが固まってきたようです。実際の実践を見に行こうと決意し行動した学生は、早速、説明会後に園見学のための電話依頼をしていました。各園の皆様、貴重な時間を割き丁寧な説明をありがとうございました。

また、その後の園と本学教員の懇談会でも活発な情報交換をすることができました。感謝申し上げます。実習や就職に関してだけでなく、今後の保育業界のためにも、養成校として今できることに取り組み尽力してまいります。

< 学生の声 >

保育内容の特徴が園によって全く異なっていて戸外遊びがメインの園や子ども主体の保育で話し合いの時間を設けている園など様々でした。しかし、どこの園も子どもがやりたいことをできるような環境を作っていたり子ども主体で保育を行っていたりする点が共通点としてあると感じました。沢山園見学へ行き、園の雰囲気を感じて自分のやりたい保育ができるかや保育内容が自分と合っているかなどを見て就職先を決めると良いということをお聞きしたので就職活動に活かしたいと思いました。

就職先を考えたときに自分がどんな保育環境で働きたいか、どんな保育をしたいかが基盤になってくる。さまざまな保育園、幼稚園の説明を聞いてみて全然雰囲気も保育の仕方も異なることなどを改めて感じた。明るい雰囲気で楽しそうな園の先生が多かったことから職員同士の雰囲気や園の環境が充実していたり、楽しそうだなということを考えた・自分がどんな園や環境で働きたいのかという意志や考えを持ちたいと思った。就職先を考えたときに説明会や園のホームページを見て、調べないといけないなと思ったと同時にいきたい園の様子と実際の園の様子が異なってしまわないように園見学に行ってみて実際の様子を見るようにしたい。

—現代社会論特集—

2年次の必修科目である現代社会論、通称「現社」は、学生自身が社会の構成員の一人として現代社会を多様な角度から考え、理解を深めるために設置されている科目です。2024年度は8つの各論（コース）から成っており、2年次の初めに学生がコース選択をします。机上だけでなく、フィールドに出て学習することを大切にしていることが大きな特徴です。前期では、どのような授業が展開されたのでしょうか？

※諸先生方のお人柄や思いをお伝えするため、敢えて文体は揃えずに、頂いた原稿そのままを掲載します。文体の違いについてはご容赦ください。

芸術を教育・福祉へ

明石 現



事を取り上げます。前期フィールドワークでは六本木にある森美術館を訪れ、現代美術の展覧会を体験しました。作品の背景にあるアーティストの思想などを知ることで、作品の解釈は変わり、また、社会の見え方が変わります。

明石クラスのテーマは「芸術を教育・福祉へ」です。音楽や美術、写真などの分野における世界中のアーティストに目を向けてみると、教育や平和貢献に携わるクリエイティブな活動をしている事例が数多くあります。そして昨今、世界各地で起きている戦争や、多様性ということばに端を発する価値観の大きな変化は、多くのアーティストに新たな自身の表現活動を促すきっかけとなっています。授業内では、毎週、冒頭にその週に起きたニュースを持ち寄り、共有します。その上で、南米、ヨーロッパ、中東など、世界の様々な地域で実践されている芸術活動の映像や記事



森アーツセンターギャラリー

社会的養護を考える

小木曾 宏



子どもは親や環境を選んで生まれて来れない。さらに、「子ども虐待」により、生命を落とす子どももいる。目を転じて、世界では、日々、ゴミを拾って暮すストリートチルドレンという子ども達もいる。その中で「社会的養護」下で暮らす子ども達の実態を知り、改めて子ども達への理解と支援の在り方を考える。

さらに子どもだけの問題ではなく、親や家族を理解することで、親支援や家族支援の可能性も考える必要がある。具体的に授業では、「子どもの貧困」と「子ども食堂」の役割を考えたり、実際に社会的養護施設の子供達の事例を検討する。さらにフィールドワークでは、児童自立支援施設「千葉県生実学校」、児童養護施設「千葉みらい響の杜学園」に行き、それぞれの現状について理解を深めてきた。今後、母子生活支援施設の視察も行う予定。



千葉みらい響の杜学園

現代社会の犯罪一同じ社会を生きるものとして一

金子 重紀



最高裁判所

現代社会論金子コースは、『現代社会の中の犯罪一同じ社会に生きる者として』と題して授業を展開しています。犯罪や非行は、時代によって傾向が変わります。また、個々の犯罪や非行には必ず動機があり、その動機はその人の生き立ちや環境等の背景があります。つまり、犯罪や非行は、私たちの社会の鏡でもあるのです。たとえば、少年院に入っている男子では3割強、女子に至っては6割に虐待経験があるといわれています。私たちの社会のひずみが犯罪や非行に表れているともいえると思います。

また、フィールドワークとしては、裁判傍聴や刑務所見学、少年院見学を行っています。悪意でもなく同情でもなく、冷静に犯罪や非行から現代社会を見てみませんか。



千葉地方裁判所

短大生のワイドショー

佐藤 隆司

奇抜なコース名の現代社会論「短大生のワイドショー」の目指すところはズバリ「傾聴力・発信力・整理力」の向上と社会の出来事を知る・調べる・理解するの一般教養の獲得にあります。実際の授業はテレビのワイドショー同様、双方向性の授業です。話題提供者役の学生はパワポ六画面に政経・家族問題・雑学等の時節の話題を取り纏め、コメンテーター役の学生は話題提供者のレポートに必ず意見・感想を発信しなければなりません。前期は「自民党政権」「校則について」「嘘を見抜く方法」「モス・バーガー」「子どものゲーム時間」「入浴中のスマホについて」等の計32の話題を取り上げました。また、学外授業は学生ツアーコンダクターによるJR総武線「両国」駅界隈の史跡、博物館、心霊・パワースポット巡りです。散策の最後には「たいやき君」にも会えます！



今どきの児童館・放課後児童クラブ・子育てサロン

鈴木 良東

鈴木クラスは、時代のニーズに伴い児童館・放課後児童クラブが多様化し、機能も増加しているところに焦点をあて、調査研究、フィールドワークも実施し、その原因を探る。例えば、児童館は、主な利用が小学生なのだが、近年は、乳幼児向けや、中高生向きなどに、利用対象を特化した児童館ができたり、また、従来の小学生向きの児童館であっても、不登校の子どもの受け入れや、保護者の相談に力を入れるなど、その役割も増え、変化して



いる。何故か？前期は、児童館の映像を見たり、小学生の遊びを体験したり、小学生の発達を学んだ。フィールドワークは、2つの異なる放課後児童クラブ（公立学校内児童クラブと、私立単独児童クラブ）を訪問し、それぞれの特徴を調べ、比較検討し、模造紙にまとめた。後期は、多様な児童館を訪問し、乳幼児保護者や、小中学生とも交流する機会を持つ。



人類学とフィールドワークー大相撲から文化と伝統を学ぶー

松山 啓



このクラスは、日本の「大相撲」にまつわる「文化」や「伝統」について、人類学的な視点から探究することをテーマとしています。そもそも「文化」とは何か？「伝統」とは何か？といった問いから、フィールドワークを通じて、人類学的なものの見方や考え方を学んでいます。前期のフィールドワークでは、実際に相撲部屋の朝



稽古を見学したり、大相撲9月場所を観戦したりしました。また、「両国はなぜ相撲の街になったのか？」という問いに基づき、自然と文化をめぐる江戸～明治時代の歴史を考察しながら両国の街歩きを行いました。後期の授業では、みんなでちゃんこ鍋を作ったり、佐倉市にある国立歴史民俗博物館を見学したり、江戸時代の最強力士といわれる雷電爲右衛門（らいでん ためえもん）の史跡めぐりなどを実施する予定です。



コンビニから社会の変化を考える

吉岡 秀子



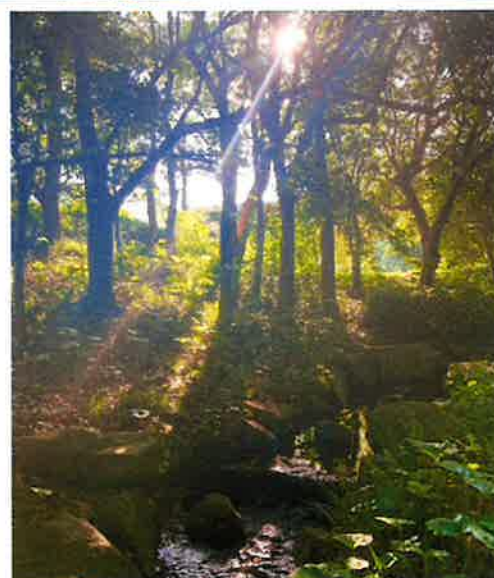
本コースでは、コンビニを教材として「社会に何が起きているのか」「未来はどうなるのか」など“自ら考える力”を磨いています。前期のフィールドワークは、東京・浅草と横浜・カップヌードルミュージアムを訪れました。浅草は今、外国人観光客でいっぱい。「なぜ、浅草は外国人に人気があるのか」という問いを掲げ、チームに分かれて街を巡りました。買い物中の観光客に声をかけて調査したり、名物を食べてみたりと思い思いのやり方で浅草の“文化”に迫った有意義な一日となりました。カップヌードルミュージアムでは、インスタント麺の歴史を学び、オリジナルカップヌードルづくりにも挑戦！ふだんは気づかない暮らしの変化も、視点を変えれば見えてくる——体験から生まれる「なぜ？」を大切に、社会課題の解決につながる学びにつなげていきます。



『まちあるき』から社会を考える

鷲野 宏

このクラスでは、建築物や広場のようなハード面とそこに集う人々の服装や振る舞いといったソフト面など、多様な観点から都市という現象を観察して、都市に現れるデザインと社会のもつ価値観との関係を探っていきます。授業は、1) まちの観察方法の紹介やまちそのものに関する座学、2) 実際に都市に身を置き観察する「まちあるき」、3) 観察結果に基づく対話の3つを1セットとして、このサイクルをまちごとに繰り返します。前期は、東京駅丸の内駅舎とその周辺を含む丸の内エリアなどを訪れ、リアルなまちの姿を体感し、歴史あるまちでは過去との対比で現代社会を考え、一つの時代に計画されたまちでは、計画時の考え方を現在地から眺めました。後期も、まちを題材に、現代社会を構成する価値観あるいは課題を明らかにしていきたいと思います。



学生企画

「池谷 潤子先生にインタビュー！！」



池谷 潤子先生



専門分野	音楽と動きの教育 ドイツの保育者養成教育（カリキュラムと実習）
趣味	旅行（知人を訪ねる）、ラジオを聴きながら庭仕事
MBTI	ESFJ(領事タイプ)

先生の授業はこんな授業ー！！

<1年生> 保育内容演習、こどもと文化など

<2年生> 教育実習、ゼミ、あそび技能演習など

ゼミでは、学内の子育て支援である育ちあいのひろば「たいむ」でのイベントの企画・運営、ボランティアに学生と入ります。夏休みには小中学生「たいむ」、秋はいもほり、焼きいもをします。



明德のおすすめポイント！！

『教職員が素敵！！』



とにかくよく話し合い、考えることが好きな教員集団。学校の特徴である『体験から学ぶ』『教室の枠を越える』『自ら学びを創る』を、楽しみながら実践に取り組んでいる方達です。職員の方のお話もキャリアデザインの授業で聞いてみましょう。学生たちも、国際幼児教育学会で大活躍して素敵だったとおっしゃってくれました！！

『フィールドワーク』

わくわく体験研修、現代社会論など『アクティブラーニング』を30年以上前から続けてきていること。池谷先生は、南ドイツの森の幼稚園での保育参加などを、学生たちと体験してきました。教員の研究フィールドに学生と行き、現地の人たちと交流し、様々な価値観に触れて学ぶことは貴重な時間だったそうです。



池谷先生からみんなへ

現役の学生たちには、2年間を通して保育・福祉だけでなく、様々なフィールドワークを面白がって、仲間たちと一緒に教養も深めてほしいと思います。

卒業生の人たちには、久しぶりに短大に行ってみようかな？と思ったら、同期の仲間を誘ってぜひ遊びに来てほしいです。また、現場を離れて子育てをしたり、違う仕事に就いている方に向けて、潜在保育士向けの企画を考えていますので、ぜひ短大に連絡をください！



学生企画

「伊藤恵里子先生に突撃インタビュー！！」

伊藤 恵里子先生

最近の関心領域：保育者養成 保育者のキャリア形成 園内研修

1年生授業：保育原論 保育内容演習 保育実習指導I

2年生授業：こども臨床学 卒業演習

ゼミでは、「マイノリティ問題から考える保育・教育」をテーマに、さまざまなマイノリティ問題について考えています。これまで、障害者差別、外国人や移民族差別についてフィールドワークなどを通して学びました。

誕生日：3月6日

MBTI：ENFJ（主人公）

趣味：韓国語の勉強

韓国の挨拶は全て「안녕하세요（アンニョンハセヨ）」です。漢字でアニョを安寧と書くのですが、安らかに丁寧であってほしいという願いが込められているそうです！

明德の好きなところ

先生たちが頑張っているところ、飽きたりしないよう自分たちも学生も楽しめるよう授業の工夫を惜しまないところ

図書館長として



今年からインスタアカウントを開
設し、みなさんにおすすめの絵本
や図書を発信しています。今後は
2年生のための卒業レポート作成
講座なども企画しています。ぜひ
ご利用ください。

みんなへのメッセージ

学生の皆さんはいっぱい勉強してください！勉強して
いくと、他の物事にも派生して繋がっていきます。そう
することで、人に優しくなることができます。優しい人
になってください。



本学で国際幼児教育学会が開催されました！

本学教員の古賀先生が大会実行委員長を務めました！

国際幼児教育学会 第45回大会

〈テーマ〉
**「誰しにも
対話する機会を」**

〈会期〉
9/20～9/22
(金) (日)

対面開催

会場：
千葉明德短期大学
千葉市中央区南生実町1412

大会スケジュール

9/20 (金)	9:30～15:30	スクールビジット (定員あり：事前申し込み者のみ) ①千葉明德短期大学附属幼稚園 ②明德土気こども園 ③午前：園見学 午後：グループディスカッション
9/21 (土)	9:20～10:00	受付 開会式
	10:30～12:00	基調講演 Professor Patricia Doolitzsch (L.A. Pierce College) "Roses and Thorns: Using reflective practices to learn and grow" 「蕾と棘：学び、成長するための反省実践の活用」
	12:40～14:40	口頭発表Ⅰ ポスターセッション
	15:30～17:00	道徳ワークショップ 音楽ワークショップ 「主体的で対話的な音楽表現の可能性について」
	17:30～19:00	情報交換会
9/22 (日)	10:00～12:00	口頭発表Ⅱ 身体表現ワークショップ 絵本紹介 ワークショップ 絵本の読み語りあれこれ！
	13:00～14:30	全体シンポジウム 「対話で学ぶ教育実践を可能にするもの」 第1部 来賓中日の対話を通して考える 第2部 フロアとの対話から考える
	15:30～17:00	閉会式

口頭発表 (英語・中国語・日本語)、ポスター発表 (英語) で発表申し込みが可能です。英語発表の方の参加・発表も多数お持ちしております。申し込みは国際幼児教育学会HPの45回大会特設サイトから行ってください。

附属幼稚園や明德土気こども園のスクールビジットから始まり、基調講演、口頭発表、ポスター発表、ワークショップ、シンポジウムなど盛りだくさんの内容が開催されました。中国、タイ、アメリカなど海外からの参加者も多く、総勢約150名の参加者が学園を訪問しました。学内には、中国語や英語の掲示が貼られ、外国の方々が講堂に集う様子は、普段の学校とは随分と違う雰囲気でした。学生アルバイトたちのきめ細やかに働く姿も素晴らしく、訪問者からお褒めの言葉を頂きました。



お問い合わせ先：国際幼児教育学会 第45回大会実行委員会 <cmc.ece@gmail.com>



入会、退会、会員情報の変更、会費納入などに関するお問い合わせは、学会事務局 (会員管理) まで
<国際幼児教育学会事務局 (会員管理) laece@asas-mail.jp>



<https://laece.jp/>



申し込みは
こちらから

参加費	
大会参加費	7,000円
会員費	8,000円
アール・保育現場の方	3,000円
海外会員	10,000円
大会費 (口頭・ポスター)	3,000円
スクールビジット参加費	3,000円

申し込み方法	
詳細は、IAECEホームページ大会特設ページをご覧ください。	
参加申し込み期間	4月1日(月)～
発表申し込み期間	4月1日(月)～5月31日(金)
発表要旨提出期間	7月1日(月)～7月21日(日)

編集後記

暑かった夏もやっと終わる気配です。カラッとした涼やかさが気持ちの良い季節ですね。私は秋が一番好きな季節です。いつの頃からか、ホットコーヒーを美味しく感じるようになると「秋の到来」と思うようになりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋etc.何をするにも気持ちの良い気候に感謝して、皆様も素敵な時間をお過ごしください。短大では、12月の学内コンサート「明德はうたう・冬」に向けて、あちらこちらから準備の気配を感じます。「みんなで楽しむ時間がつくれるよう頑張ろう!!」と自分に言い聞かせている今日この頃です。(osawa)

<学事日程>

11月4日(月) 両学年・休日授業 (月曜日課)
14日(木) 2年生インフルエンザ予防接種
15日(金) 1年生インフルエンザ予防接種
12月20日(金) 明德はうたう・冬
24日(火)～冬季休業期間
1月6日(火) 冬季休業終了

1月13日(月) 1年生・休日授業(月曜日課)
14日(火) 1年生・月曜日課
15日(水) 1年生・後期授業終了・金曜日課
15日(水) 1年生・保育実習I事前指導
20日(月)～1年生・保育実習1(前半)
(2月1日まで)
1月24日(金) 2年生・月曜日課